

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	2		・活動フロアを2分割して静スペース動スペースに分けている ・仕切りをして動きが激しい子と騒がしいのが苦手な子などを分けている	
	2	職員の配置数は適切である	1	5		・配置基準はみたしている。・曜日により人手が足りなくなる。 ・声掛けなどで付き添いなどで個室に入る時は他の職員にわかるようにしている	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	1		・物を出しっぱなしにしない。 ・バリアフリー化をしているが状況により後付装着の部分あり。 ・車椅子用スロープの用意	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	4		・常に目標を確認し、行動と結びつけるようにしている。 ・振り返りが出来ていない事がある。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1		・他事業所との交流を企画している。 ・保護者支援の為要望の取り上げ。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	3		・ホームページに公開している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	5			
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0		・社外/社内問わず参加。校舎ごとや全体的に実施。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0		・スケジュール管理し漏れ無く実施している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		・SM社会生活能力検査を活用。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	2		・身辺自立の為の繰り返し活動や声無き子ども達同士のコミュニケーションをどうするか。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	2		・学休日はイベントを取り入れ、楽しめる活動を行なっている。 ・繰り返し活動を重点に置いているが、季節の行事等を盛り込んでいる。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	2		・日々の目的を明確にしている。 ・飽きないように外出活動を多く取り入れている。 ・子供が興味を惹くようなやり方を工夫している。マンネリ化にならないようにしたい。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	2		・学齢が異なる事がほとんどで難しさがあるが量を増やしたり変化をつけている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	3		・朝礼で打ち合わせを行っている。パート職員への役割が周知を細かく行う。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1		・当日児童チェック表にて記録。次日の朝礼にて振り返りをしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	2		・HUGシステムにて管理。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0		・ガイドラインに基づき実施している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	1		・現場ではガイドライン以外の事案が発生する場面があり、臨機応変に対応している。	
	関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1		
		21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	1		・現場ではガイドライン以外の事案が発生する場面があり、臨機応変に対応している。
		22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	6		・医療的ケア児の利用なし
		23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0	6		・保護者からの情報に統一しているが、必要あれば連絡を取り合う。
		24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	3		・関係機関からの要請があれば共有する。
		25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2		・小さな情報も共有している。
		26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	6		
27		(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	3		・西尾市放デイ連絡会に参加。	
28		日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1		・送迎送迎時に保護者と家庭連携している。	
29		保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	4		・楓校で実施。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	2		・契約時に説明。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5		・保護者会が実施できることが望ましい。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	2		おたよりを月に一度配布。	
	35	個人情報に十分注意している	5	1			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0			
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2		・マルシェへの出店・キッチンカーを呼び、地域の方にポスティングを行っている。	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2		・整備しているが、保護者への周知不足。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	1			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	4			
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0				